

I 目指す学校

本校は、130年の輝かしい歴史と伝統を受け継ぎ、「国際社会に貢献するトップリーダー」を育成する学校を目指す。そのために、全教職員が以下の目標を共有し、教育活動のあらゆる場面において、その実現に向けた取組を進める。

1 幅広い教養と総合力を培う教育の推進

文系・理系を問わず、学問に対する興味・関心を抱かせ、学ぶ意欲を向上させる授業を行うことにより、生徒が、①自ら課題を発見し、自ら考え、判断し、工夫して、解決していく力 ②コミュニケーション能力 ③国際社会で求められる自国の歴史や文化に対する幅広い教養や多様性を受け入れる寛容さ等 を身に付けられる教育を推進する。

2 自主学習の推進と文部両道の実現

生徒が自主的・計画的・継続的に学習を進め、学習を中心に置きつつ、学校行事や委員会活動、部活動等への積極的な参加を通じて、社会的自立と社会貢献への意欲と能力を育むことができるよう、積極的な支援を行う。

3 強い意志と高い志の育成

本校独自のキャリア教育や進路指導等を通じて、自らの可能性を信じ、社会に貢献しようとする意志と能力、高い目標を設定し、その実現を目指す計画性、着実さ、粘り強さを育成する。

II 中期的目標と方策

本校がこれまでの実績と成果を踏まえ、さらなる高みを目指すために、教育活動のあらゆる場面を通じて、「主体性」（他者の助言を受け入れる素直さを前提としつつ、自らの意志や判断に基づき、自らの目標や理想に向かって、自らの責任で行動していく力）を持った生徒を育てる教育を推進する。

この目標を実現するため、今後2～3年間を目途に、以下の取組を着実に実行していく。

1 高大接続改革の流れの中で、「学力の3要素」（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を多面的・総合的に評価する記述式問題や教科融合型問題等に対応できる力を全ての生徒に身に付けさせることを目指して、全教科で「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組を進める。

2 次期学習指導要領を視野に入れ、カリキュラムマネジメントの視点に立って、生徒の「主体性」を育てるために必要な資質・能力や学び方、学習評価のあり方等を包括した学校のグランドデザインを作成するとともに、各教科の特質に応じた「見方・考え方」についての共通理解を図り、それらを踏まえた学習を推進する。

3 SSHの取組を全校に展開することにより、「探究活動」を軸とした「自律的な学び」「知識の体系化」「仮説検証型学習」「自問自答型学習」等に取り組み、「受け身の学習」から「能動的な学び」への転換を図る。

4 特別活動（ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事）や部活動、「人間と社会」の活動等を通し

て、本校の伝統である「自主自立」の精神を踏まえ、生徒が自ら課題を見つけ、自ら収集した情報をもとに自ら解決策を考え、自らの意志や判断に基づいて自らの責任で行動し、問題をよりよく解決していけるよう最大限の支援を行う。

Ⅲ 今年度の取組目標と方策

1 教育活動の目標と方策

(1) 学習指導

今年度の取組目標	具体的 な 方 策
<p>ア 進学指導重点校として、学力向上に向けた組織的、継続的な取組を進める。</p>	<p>①習熟度授業、少人数授業やICTの活用等により、個々の生徒の学力に応じたきめ細かな学習指導を行うとともに、深い学びにつながる対話型、協働型、双方向型の授業づくりを推進する。</p> <p>②基礎学力が不足している生徒に対しては、早期に補習等を行い、学力向上に努める。</p> <p>③入学時からの学力の定点観測と「学力進路データベース」の整備により、個々の生徒の現状を全教員で共有し、学力の向上と進路希望の実現を図る。</p>
<p>イ 生徒の自主学習時間を確保するとともに、学習環境を保証する為の支援を行う。</p>	<p>①年2回学習状況調査を実施し、生徒の自主学習時間を調査し、適切な指導を行う。</p> <p>②1学年では「中学校での学習から高校での学習」への円滑な移行、2学年では学習中心を前提とした部活動、学校行事であることの徹底、3学年では第一志望をあきらめず後期入試まで頑張る指導を全校体制で行う。</p> <p>③退職ボランティアや卒業生等をチューターとして活用し、自習室を午後8時まで（夏季休業日中は7時まで）開放する。</p>
<p>ウ 「東京都オリンピック・パラリンピック教育」実施方針も踏まえ、国際社会に貢献するトップリーダーにふさわしい幅広い教養と豊かな国際感覚を醸成する。</p>	<p>①日本人としての教養、国際人としての教養を身に付け、多様な文化や価値観を理解しそれを受け入れる知性と寛容さを持つ生徒を育成できるよう、次世代リーダー育成道場への参加や海外の姉妹校等との交流を積極的に進めるとともに、ビブリオバトル等を活用した読書活動や様々な文化活動等の充実を図る。</p> <p>②オリンピック・パラリンピック教育の取組として、全教科を通じて日本の歴史と文化に対する理解を深めるとともに、世界友達プロジェクトを推進し、インターネット等も活用しながら海外の姉妹校等との交流を進める。</p>
<p>エ 英語教育推進校として、4技能をバランスよく育成し、将来国際社会に貢献できる人材を育てる。</p>	<p>①オンライン英会話やJETの活用等により、特に「聞く」「話す」力を育てる。</p> <p>②4技能を測定する外部検定試験を1学年と2学年全員に受験させ、総合的な英語力の向上を図る。</p> <p>③JETを活用し、現代英語として適切な表現ができる力を育成するとともに、理数論文等でも的確な表現ができる力を育成する。</p>
<p>オ SSH事業の一層の充実を図る。</p>	<p>①1学年全員が学校設定教科「知の探究」を履修することで、科学技術リテラシーを持った地球市民を育てる。</p> <p>②科学の甲子園等のコンテストでの上位入賞者数、生徒の英語での研究発表の回数を増やす。</p> <p>③バーチャルシンポジウムや大学と高校の理系女子交流会を開催するとともに、海外を含む研究機関や大学、高校等との共同研究や直接交流、他のSSH校との連携</p>

	<p>を強化する。</p> <p>④SSH事業での成果を、東京都内及び首都圏の小中学校や高校の教員に発信し、地域の理数教育の発展に寄与する。</p> <p>⑤SSHクラス以外の生徒にも理数講演会や教科融合型の講義、ワークショップ等を行い、理数リテラシーの育成とプレゼンテーション能力の向上を図る。</p> <p>⑥SSHの第IV期申請に向け、必要な準備を行う。</p>
--	--

(2) 進路指導

今年度の取組目標	具体的な方策
ア 進学指導重点校として、1学年から系統的、組織的な進路指導をきめ細かく行う。	<p>①学習ガイダンス等を丁寧に実施することで、入学時の高い進学目標を持ち続けさせ、目標達成のための努力を促す。</p> <p>②進学対策会議を核に、志望校検討会等も活用しながら、進路部を中心として、学年と教科が個々の生徒の情報を共有して学力向上と進路希望の実現を図る。</p> <p>③学校外の機関等と連携し、総合的な学習の時間等を活用して、普通科進学校としてキャリア教育を推進する。</p> <p>④1学年で導入するClassiを有効に活用し、ポートフォリオを作成させることで、学習の振り返りを可能にし、よりきめ細かな個別指導の充実を図る。</p>
イ 長期休業日中の講習の参加生徒数を増やす。	<p>①各教科で講習内容を検討し、全員体制で講習に取り組む。</p> <p>②長期休業日中は部活動、学校行事の準備より講習を優先するよう生徒を指導し、講習の参加生徒数を増やす</p> <p>③早い時期に長期休業日中の講習の講座数・日程等を生徒に周知し、生徒に長期休業日中の学習計画を立てさせる。</p>
ウ 「チームメディカル」の取組を進めることで、医学部医学科進学希望者の進路実現を図る。	<p>①在京の医科大学や医学系研究機関、病院等と連携し、生徒向けの講演、見学、体験実習等を行い、課題研究と研究発表会を行う。</p> <p>②1年から十分な自主学習時間を確保させ、文系科目も含めて基礎基本を取りこぼすことなく学習させる。</p> <p>③TMに参加していない生徒も含めて、医学部医学科に対する客観的かつ正確な進路情報を提供し、首都圏に限らず、日本全国で自分に合った大学を選択できるよう支援する。</p> <p>④クラウド等を活用して生徒個々の学習状況と学習成果を迅速かつ的確に把握して指導するシステムを確立する。</p>

(3) 生活指導

今年度の取組目標	①具体的な方策
ア SNSの適切な利用促進に関する指導を徹底する	①望ましい生活習慣を確立する指導の一環として、生徒が意図せずにトラブルや犯罪に巻き込まれたり、他者を傷つけたりすることのないよう、全教職員があらゆる機会をとらえて「SNS戸山ルール」の徹底を図る。
イ 体罰根絶といじめの未然防止・早期発見・早期対応を徹底する。	<p>①いじめ・体罰に関する調査を年3回実施するとともに、特に部活動において、顧問教諭と外部指導員とが連携して体罰を許さない体制を構築する。</p> <p>②法律上のいじめの定義が社会通念上のいじめの概念より広く捉えられているこ</p>

	とを踏まえ、学校いじめ対策委員会を活用し、管理職、養護教諭、生徒指導主任、学年主任、学級担任、スクールカウンセラー等が連携していじめの未然防止に努めるとともに、その端緒で速やかな解決を図る。
--	---

(4) 特別活動・部活動

今年度の取組目標	具体的 な 方 策
ア ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事をとおして、生徒の「主体性」を育てるとともに、戸山高校生としての一体感を持たせ、学校生活の充実を図る。	①本校の伝統である「自主自立」の精神を踏まえ、生徒が自ら課題を見つけ、自ら収集した情報をもとに自ら解決策を考え、自らの意志や判断に基づいて自らの責任で行動し、問題をよりよく解決していけるよう最大限の支援を行う。 ②学校行事において、見通しを持って計画的に準備させることにより、質の高さを確保するとともに、行事終了後は速やかに学習中心の生活に復帰できるよう指導し、授業や学業との両立を図る。 ③経営企画室と担当教員が連携し、会計担当生徒を指導して適切な会計処理を行う。
イ 部活動をとおして、ルールを守り、目標に向かって仲間と協力し、努力する態度を育成する。	①活動内容や活動方法等を工夫することで、短時間で質の高い活動を行うとともに、活動時間や下校時刻等を厳守させることで、メリハリのある活動と自主学習時間の確保を図る。 ②部活動ごとに口座を開設し、部費を一元管理するとともに、通帳や会計報告等を定期的に管理職が確認することで、適正な部費の執行・管理を行う。

(5) 美化・健康づくり

今年度の取組目標	具体的 な 方 策
ア 心身の健康と安全に対する意識を高め、健全育成を支援する。	①体育科教員及び部活動顧問の適切な指導により、授業や部活動等の体育活動中の事故を未然に防止するとともに、万一事故が発生した際の対応についてシミュレーションを行い、生徒の安全を確保する。 ②関係機関と連携して防犯・防災教育を行い、自分の身は自分で守る意識を持たせる。 ③自転車使用に関する安全指導をはじめとした交通安全指導を徹底する。 ④発達障害等特別な支援が必要な生徒を含む障害のある生徒に対して、合理的配慮に基づく適切な対応を行うとともに、障害者への理解を深める教育を行う。 ⑤食物アレルギーのある生徒に関する情報を校内で共有するとともに、エピペン練習用トレーナーの実習を含めた校内研修を実施する。 ⑥自殺対策基本法及び自殺総合対策大綱に基づき、小さなサインを見逃さず、迅速かつ組織的な対応を行うとともに、SOSの出し方に関する教育を推進する。
イ 「アクティブプラン to 2020」を踏まえ、生徒の体力向上を支援する。	①本校の生徒が弱い「投げる力」等の強化を図り、体力テストの結果を向上させる。 ②オリンピック・パラリンピックをよい契機として、生涯にわたりスポーツに親しむ姿勢を育てる。
ウ 校内美化の徹底を図る。	①ごみの分別や清掃の励行等を全教職員が指導することで、校内美化の徹底を図り、学習の場にふさわしい環境を整備する。

(6) 募集・広報活動

今年度の取組目標	具体的な方策
ア 組織的かつきめ細かな募集対策の充実を図る。	①本校の特色や強みを重点的にわかりやすくアピールする等の戦略的な募集・広報活動を展開するとともに、学校案内や学校説明会、学校見学会等の充実に努める。 ②生徒や保護者、行政系職員等の意見も取り入れながら、中学生やその保護者の目線に立った情報発信を強化する。 ③本校の教育に対する姿勢をアピールできる、進学指導重点校に相応しい入試問題等の研究を行う。
イ 学校ホームページの充実を図る。	①ホームページによる発信力が学校の評判を左右するという現状を踏まえ、本校の特色や教育活動の様子等をタイムリーに発信するとともに、古い情報の速やかな更新とわかりやすい画面構成の工夫に努める。

(7) 学校経営・組織体制

今年度の取組目標	具体的な方策
ア 校内組織を活性化し、組織的・計画的な学校運営を行う。	①主幹・主任のリーダーシップに基づく分掌・学年・教科内での情報共有と管理職への報告・連絡・相談を徹底し、風通しのよい職場環境を構築する。 ②企画調整会議と進学対策会議を核として、分掌会・学年会・教科会等との情報の相互伝達と共有化を図る。 ③「学校における働き方改革推進プラン」に基づき、午後7時までの退勤と週一日の完全休養、年間10日以上の子休取得に取り組む。
イ 自律経営推進予算の有効活用を図る。	①計画的な事務執行により、予算の有効活用と一般需用費におけるセンター執行率の向上を図る。 ②経営企画室と教員が連携し、中長期的見通しに立った施設・設備・備品等の更新を行う。
ウ 図書館の充実と利用率の向上を図る。	①自律経営推進予算に基づく蔵書の充実に努め、生徒の学力の向上、幅広い教養や国際性の育成等に役立つ資料を収集する。 ②ビブリオバトルへの取組や新着図書・推薦図書の紹介等により、生徒に読書習慣を身に付けさせる。
エ 教職員のサービスに関する意識を向上させ、サービス事故の根絶を図る。	①サービス事故防止研修を実施し、特に体罰や不適切な指導、セクハラ等の禁止について徹底を図る。 ②個人情報等の組織的な収集と適正な管理について徹底するとともに、特に生徒の答案の紛失・誤廃棄を防止するための必要な措置を講じる。
オ 次期学習指導要領実施に向けた検討を進める。	①カリキュラムマネジメントの視点に立って、生徒の「主体性」を育てるために必要な資質・能力や学び方、学習評価のあり方等を包括したグランドデザインを作成するとともに、各教科の特質に応じた「見方・考え方」の共通理解を図る。

2 重点目標と数値目標

重点目標	具体的な数値目標 (27年度→28年度→29年度⇒ <u>30年度</u>)
学力向上 と自主学 習時間の 確保	<p>○一日の自主学習時間</p> <p>1年生 6月 2時間 50分→2時間 35分→2時間 49分⇒ <u>3時間</u> 11月 2時間 49分→2時間 57分→2時間 57分⇒ <u>3時間</u></p> <p>2年生 6月 1時間 39分→2時間 9分→2時間 13分⇒ <u>3時間</u> 11月 2時間 24分→2時間 44分→2時間 34分⇒ <u>3時間</u></p> <p>3年生 6月 4時間 25分→3時間 52分→4時間 7分⇒ <u>5時間</u></p> <p>○定点観測の11月のベネッセ模試総合成績における国数英の総合偏差値</p> <p>1年生 74以上 30名→59名→65名⇒ <u>60名</u> 68以上 131名→166名→159名⇒ <u>160名</u> 60以上 281名→299名→317名⇒ <u>300名</u></p> <p>2年生 74以上 23名→32名→30名⇒ <u>60名</u> 68以上 103名→124名→109名⇒ <u>150名</u> 60以上 235名→262名→258名⇒ <u>310名</u></p>
進学重点 校として の進学実 績の向上	<p>○センター試験5教科以上受験者 223名→258名→285名⇒ <u>280名</u></p> <p>○同上760点(約85%)以上受験者 29名→49名→37名⇒ <u>50名</u></p> <p>○東京大学現役合格者 2名→5名→5名⇒ <u>10名</u></p> <p>○難関国公立大学(東大・京大・東工大・一橋大・国公立大医学部医学科)現役合格者 21名→29名→22名⇒ <u>35名</u></p> <p>○国公立大学現役合格者 106名→116名→115名⇒ <u>120名</u></p> <p>○国公立大学医学部医学科(私立医大の東京都地域枠を含む)現役合格者 2名→2名→4名⇒ <u>6名</u></p>
募集対策 の充実	<p>○学校説明会(10・11月)の参加者 1525名→1455名→1768名⇒ <u>1700名</u></p> <p>○応募倍率(推薦)4.02倍→2.75倍→3.98倍⇒ <u>4倍以上</u> (一般)2.14倍→1.81倍→2.10倍⇒ <u>2倍以上</u></p>
SSH事 業の一層 の充実	<p>○科学の甲子園等のコンテスト、研究発表会の上位入賞者 73名→55名→50名⇒ <u>80名</u></p> <p>○生徒の英語での研究発表 58件→117件→110件⇒ <u>100件</u></p> <p>○授業公開、地域向け講演会、研究発表会の開催回数 12回→12回→12回⇒ <u>12回</u></p> <p>○SSHクラス以外の生徒向け理数講演会、教科融合型の講義、ワークショップ等の開催 12→12回→12回⇒ <u>12回</u></p> <p>○地域の小学校の教員向けの理科実験講習会の開催 6回→6回→6回⇒ <u>6回</u></p> <p>○東京周辺の理科教員向けの研修会の開催 20回→12回→22回⇒ <u>20回</u></p> <p>○本校で開催するSSH研究成果合同発表会の発表校数と見学者数 17校380名→29校600名→36校600名⇒ <u>30校600名以上</u></p>